

感謝と挑戦

九州工業大学硬式野球部 主将

八木 大晴(字機B3)



先の10月3日で第50回秋季リーグ戦の幕が閉じました。九州工業大学は不戦勝の2勝を含めて、2勝8敗で最下位という成績に終わりました。最下位脱出を目標に日々練習してきたため部員全員、特に現4年生にとつては最後のリーグ戦だったこともあり、悔しい結果となりました。応援ありがとうございました。

2021年に行われた春、秋のリーグ戦では勝利にこそ届きませんでしたが、多くの収穫があったと考えています。まず、春季リーグでは2月いっぱいまで満足な練習ができないままの開幕でした。人数も開幕時は14人でしたが、週を追うごとに新一年生が入部してくれて、最終的には21人で戦うことができました。最終週は不戦勝だったため、他チームと比べて2試合少なく閉幕しましたが、2年の平野颯人が外野手としてベストナインに選ばれました。強豪ひしめく福岡六大学リーグの中で名誉ある賞をいただいたことはうれしく、誇らしいことであると同時に九州工大部員の刺激になりました。

年生が入部してくれて、最終的には21人で戦うことができました。最終週は不戦勝だったため、他チームと比べて2試合少なく閉幕しましたが、2年の平野颯人が外野手としてベストナインに選ばれました。強豪ひしめく福岡六大学リーグの中で名誉ある賞をいただいたことはうれしく、誇らしいことであると同時に九州工大部員の刺激になりました。



ベストナインを受賞した平野颯人外野手

春リーグが終わり、幹部が変わりチームも新体制となりましたが、緊

急事態宣言やまん延防止対策法により、練習や練習試合が制限されています。秋リーグ開幕の時期にもちょうど緊急事態宣言が発令され、九州工業大学の方針として課外活動が禁止となり、出場自体が危ぶまれました。大学の事務の方々、保健センターの先生方をはじめとして、様々な方々のご協力によってPCR検査をし、全員陰性を条件に出場を許可していただきました。毎週試合出場のためのPCR検査を手配していただき、無事に最終週まで全員で戦い抜くことができました。関係者の方々には本当に感謝しています。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

秋リーグを終え、今チーム全員悔しい気持ちでいっぱいです。春リーグに結果を残すため、それまでの期間をどう過ごすかがカギとなつてくると思います。今年から硬式野球部の活動の一部を学生プロジェクトに採択していただき、データを用いた練習で効率よくレベルアップを図っています。夏から動画撮影、動作確認をするため、新たにタブレットも導入しました。チームでウェブサイ

トを用いて情報共有をしたり、練習メニューを全員で提案しあったりと学生プロジェクトによってチームの野球への意識改革にもつながっているとあります。高い意識の中でお互い刺激しあいながら練習し、春リーグを迎えたいと思います。

部員一同、リーグ戦出場にご尽力くださった皆様や応援してくださいました皆様に、結果でお返ししたい気持ちが大変大きいです。秋、冬を超え進化した九州工大野球部で来季の春リーグこそは最下位脱出を果たせるよう精進していきます。これからも応援よろしくお願いします。



春リーグ、ペイパイドームでの試合を終えて一枚